

全日本学生剣道連盟の歴史年表（昭和27年～令和3年）

年号	全日本学生剣道連盟	全日本剣道連盟	主な出来事
昭和27年 (1952年)	7月 関東学生剣道連盟が結成された。 (関東・関東学生剣道連盟となる) 12月 第1回関東学生剣道大会が早稲田 大学で開かれた。参加8校。	8月 全日本剣道大会が栃木県日光東照宮 において開催された。 10月 第7回国民体育大会に競技種目がオー プン競技に加えられた。 10月 全日本剣道連盟が結成された。	4月 ホツダム歌等禁止。 5月 血のメーデー事件。 10月 保安隊発足。
昭和28年	6月 京都に関西学生剣道連盟が結成され た。 10月 全九州学生剣道連盟が参加5校によ り結成された。 10月 全日本学生剣道連盟結成趣意書を作 成、配布した。 11月 第1回関西学生剣道大会が京都市警 察道場(旧武徳殿)で開催された。 参加10校 12月 13日 全日本学生剣道連盟の結成式 並びに第1回全日本学生剣道優勝大 会が東京神田の国民体育館で開催さ れた。21校が参加し、中央大学 が優勝した。初代の会長に菅原順造 氏が就任された。	5月 全日本剣道連盟第1回京都大会並び に第1回都道府県対抗団体優勝試合 が、京都市警察道場(旧武徳殿)で 開催された。 11月 第1回全日本剣道選手権大会が、東 京蔵前の国技館で開催され、愛知県 の藤原正徳氏が優勝した。	2月 テレビ放送開始。 7月 朝鮮休戦協定調印。 8月 ソ連が水爆保有を声明。
昭和29年	11月 第2回全日本学生剣道優勝大会が大 阪府立体育館で開催され、中央大学 が優勝した。またこの年、第1回東 西対抗戦が実施され、東軍が16対 14で勝利を収めた。 この年、東海学生剣道連盟が結成 された。	8月 第1回全国高等学校剣道大会が日光 市公会堂で開催された。 11月 第1回全日本東西対抗剣道大会が宮 崎市で開催された。 3月 全剣道の日本体育協会加盟が承認さ れた。	3月 第五極東九日水爆被災。 4月 ジュネーブ植民平和会議。 6月 朝鮮解放公布。
昭和30年 (1955年)	12月 第3回全日本学生剣道優勝大会が国 民体育館で開催され関西学院大学が 優勝。また東西対抗は20人戦で行 われ東軍が8対7で勝利を収めた。 この年3回大会から個人戦も行われ、 中央大学の松本静二が優勝した。 この年、北陸学生剣道連盟(北信越連盟 の前身)が結成された。 この年、第1回北海道学生剣道大 会が開催された。	11月 第10回国民体育大会に、剣道ははじ めて正式種目として参加、麻沢市秩 父宮体育館に於て剣道大会が行われた。	5月 ワルシャワ条約機構(東欧8ヶ国相互援助 結成) 8月 広島で第1回水爆禁止世界大会開催 10月 南ベトナム共和国成立。
昭和31年	10月 第1回東北学生剣道大会が開催され た。3校が参加。 11月 第4回全日本学生剣道優勝大会と選 手権大会が、大阪府立体育館で24 ・25の両日にわたって開催され た。団体戦では法政大学、個人戦で は法政大学の藤田吾郎が優勝した。 また東西対抗は30人戦で行われ、 東軍が15対15で同数戦を収めた。 この年、第1回西日本学生剣道大 会が久留米市で開催された。 11月 アメリカ剣道使節団17人が来日し、 16日東京日比谷公会堂で関東学生 選抜軍と、21日京都府立武徳殿 で関西学生選抜軍と、25日大阪 府立体育館で全日本学生選抜軍とそ れぞれ親善試合を行った。	4月 定款が改正され、剣道に居合道、杖 道、薙刀が含まれた。 10月 第11回国民体育大会が兵庫県で開 催され、今年から高校の剣道が種目 に加えられた。	2月 ソ連共産党第20回大会でフルシ チョフがスターリンを批判。 7月 エジプト、スエズ運河を国有化宣 言。 10月 ハンガリー事件(ソ連軍反ソ暴動 鎮圧)。スエズ戦争(第2次中東戦 争)始まる。 11月 日ソ共同宣言(ソ連との国交回復)。 12月 国連総会で日本の国連加盟を承認。
昭和32年	7月 全日本学生剣道連盟は13名の精鋭 を選抜し、日米学生親善剣道使節団 をアメリカに派遣した。 11月 第5回全日本学生剣道優勝大会と選手 権大会が23・24の両日にわた って東京体育館で開催され、団体で は法政大学、個人では甲南大学の自 井敬雅が優勝した。東西対抗戦は 東軍が17対7の五分で勝利を収 めた。なおこの大会から団体戦5人 制を7人制に改めた。 この年、第1回中四国学生剣道大 会が開催された。	5月 文部次官通知により、従来の「しな い競技」と「剣道」を整理統合し、 「学校剣道」として、中学、高校で 正課体育で実施できるようになった。	3月 ヨーロッパ経済共同体(EEC) 調印。アフリカで初の独立国がー ナ共和国独立。 8月 茨城県東海村の原子炉点火。 10月 ソ連、人工衛星スプートニク1号 打ち上げ成功。 12月 日ソ通商条約調印。
昭和33年	11月 第6回全日本学生剣道優勝大会と選 手権大会が大阪府立体育館で開催さ れ、団体では中央大学、個人では中 央大学の志士孝吉が優勝した。東西 対抗戦は東軍が12対10の8分け で勝利を収めた。	7月 全日本剣道連盟に対し、全日本剣道 優勝者に授与するために天皇杯が下 賜された。 9月 第1回全日本実業団剣道大会が東京 後楽園ジムナジウムで開催された。 10月 第13回国民体育大会が富山県で行 われたが、携来品が大会種目からは ずされた。	2月 エジプト、シリアが合併しアラブ 連合共和国成立。 7月 イラクが王政を廃止し共和制宣言。 10月 フランスで新憲法公布し、第5共 和制成立。
昭和34年	1月 全日本学生剣道大会を個人戦・東西 対抗戦と団体戦とに分けし、それぞ れの大会を東京と大阪で毎年交互に 開催することが決定された。 6月 第7回(実期には第9回)全日本学 生剣道選手権大会が大阪府立体育館 で開催され、関西大学の川上孝志が 優勝した。東西対抗戦はこの大会か ら抜き勝負制が採用されることとな り、西軍が不戦1で勝利を収めた。 11月 第7回全日本学生剣道優勝大会が東 京体育館で開催され、東京教育大学 が優勝した。 この年、従来の北陸連盟に信州、新潟両 大学が加盟して北信越学生剣道連盟として 新発足した。	12月 中国台湾省警備隊一行16人が来日 し、各地で日華親善試合を行った。	1月 キューバ革命、カストロ首相就任。 4月 皇太子、正田美智子妃と結婚。 9月 中ソ対立激化。 10月 ソ連、宇宙ステーションで月の裏 側撮影成功。 11月 安撫院統一行動でデモ隊国会構 内突入。
昭和35年 (1960年)	この年、全日本剣道連盟新審判・ 試合規定に準じ、学生剣道審判・試 合規定を作成した。 6月 第8回全日本学生剣道選手権大会が 東京体育館で開催され、関西大学の 川上孝志が連続優勝した。東西対抗 戦は東軍が不戦2で勝利を収めた。 11月 第8回全日本学生剣道優勝大会が大 阪市中央体育館で開催され、中央大 学が優勝した。	2月 第1回全国教職員剣道大会が大阪市 中央体育館で開催された。 4月 皇孫殿下御誕生奉祝記念全日本剣道 八段七段指定選手権大会が東京体 育館で開催され、中野八十二八段が 優勝した。 10月 第15回国民体育大会剣道大会が前 本県八代市で開催され、天皇皇后 陛下が御臨幸になった。	1月 新日米安保条約・行政協定調印。 10月 立憲演説中に護国社社会党委員長刺 殺される。 11月 アメリカの大統領選で民主党のJ.F.ケ ネディ当選。
昭和36年	6月 第9回全日本学生剣道選手権大会が 大阪市中央体育館で開催され、中京 大学の志士孝吉が33年に続いて 2回目の優勝をした。東西対抗戦は	5月 全日本学校剣道連盟が結成された。 7月 日本武道館建設議員連盟が発足した。	4月 ソ連、有人人工衛星ボストーク1 号成功。 8月 ベルリンの壁成立。 11月 第1回日米貿易交渉合同委員会開

昭和37年	東軍が不戦2で勝利を収めた。 1月 第9回全日本学生剣道優勝大会が東京体育館で開催され、慶應義塾大学が優勝した。 6月 第10回全日本学生剣道選手権大会が東京体育館で開催され、関西学院大学の柴田英一郎が優勝した。東西対抗戦は東軍が不戦7で勝利を収めた。			2月 東京の常住人口が推計で1000万人を突破。 10月 中国とインドが国境紛争で衝突。キューバ危機(ソ連ミサイル撤去)。
昭和38年	1月 第10回全日本学生剣道優勝大会が大阪市中央体育館で開催され、明治大学が優勝した。 6月 第11回全日本学生剣道選手権大会が大阪市中央体育館で開催され、関西学院大学の土谷弘明が優勝した。東西対抗戦は東軍が不戦6で勝利を収めた。	この年から、中学校で剣道が正課必修となった。 5月 第1回全日本女子剣道優勝大会が大阪市中央体育館で開催された。 8月 41国会衆議院本会議で「国技の総合会館建設に関する決議案」が満場一致で可決された。 この年から、高校で剣道が正課必修となった。 9月 全日本剣道連盟は、アメリカ、ブラジルに高段者の剣道使節団を派遣した。 8月 第1回中堅指導者講習会が大坂城内修道館で開催された。		8月 米英ソが部分的核実験禁止条約調印。 11月 三井三池炭鉱でガス爆発事故、死者458人。 ケネディ米大統領暗殺。
昭和39年	1月 第11回全日本学生剣道優勝大会が東京の日本大学の講堂で開催され、中央大学が優勝した。 6月 第12回全日本学生剣道選手権大会が東京体育館で開催され、早稲田大学の池田健二が優勝した。東西対抗戦は西軍が不戦4で勝利を収めた。 1月 第12回全日本学生剣道優勝大会が大阪市中央体育館で開催され、国士館大学が優勝した。	6月 剣道、柔道等の高校教員検定制度が開設された。 10月 3日に日本武道館の開館式が行われ、天皇皇后両陛下が御臨幸になった。 15日に第18回オリンピック東京大会のデモンストレーションとして、剣道が相撲、弓道とともに日本武道館で実施された。 4月 全日本剣道連盟の定款を改正して会則として施行。屠刀を除いた。 5月 全剣道事務局が日本武道館に移した。 11月 第1回国際社会人剣道大会が台湾の台北市で開催され、日本、中国、アメリカ、沖縄の西選手団が参加した。		7月 東海道新幹線開通。 8月 名神高速道路全通。 10月 第18回東京オリンピック大会開催。 ソ連、フルシチョフ首相失脚。 中国、核実験成功。
昭和40年 (1965年)	6月 第13回全日本学生剣道選手権大会が大阪市中央体育館で開催され、関西大学の白藤一郎が優勝した。東西対抗戦は東軍が不戦12で勝利を収めた。 1月 第13回全日本学生剣道優勝大会が、武蔵の敷設日本武道館ではじめて開催され、皇太子殿下と浩宮様が御臨席になった。大会は、早稲田大学が優勝した。	4月 全日本剣道連盟の定款を改正して会則として施行。屠刀を除いた。 5月 全剣道事務局が日本武道館に移した。 11月 第1回国際社会人剣道大会が台湾の台北市で開催され、日本、中国、アメリカ、沖縄の西選手団が参加した。		2月 アメリカ軍、北ベトナムに爆撃開始。 6月 日韓基本条約調印。 11月 中国、文化大革命の兆し。 12月 朝永振一郎、ノーベル物理学賞受賞。
昭和41年	4月 学生大会の出場者資格の規定が定められた。 6月 第14回全日本学生剣道選手権大会が日本武道館で開催され、中央大学の下池哲夫が優勝した。東西対抗戦は東軍が大得戦の結果勝利を収めた。 1月 第14回全日本学生剣道優勝大会が大阪市中央体育館で開催され、国士館大学が優勝した。	7月 選抜連盟第1回全日本少年剣道練成大会が日本武道館で開催された。 9月 第1回剣道審判講習会が日本武道館で開催された。 1月 第1回全日本居合道大会が大坂城修道館で開催された。		2月 米・ソ、月面着陸に成功。 4月 中国、社会主義文化大革命(～1970)。 6月 祝日法改正。敬老の日、体育の日など法まる。
昭和42年	この年、昭和3年に全日本学生剣道連盟が結成されてから四十周年を迎えた。 6月 第15回全日本学生剣道選手権大会が大阪市中央体育館で開催され、慶應義塾大学の近藤重助が優勝した。東西対抗戦は西軍が大得戦の結果勝利を収めた。 1月 12日に第1回全日本女子学生剣道大会が日本武道館で開催され、日本体育大学の前田シン子が優勝した。 1月 20日に第15回全日本学生剣道優勝大会が日本武道館で開催され、東京教育大学が優勝した。 1月 26日に全日本学生剣道連盟15周年(昭和28年新発足)記念大会として、第1回全日本学生地域対抗剣道大会が神戸市立中央体育館で開催され、関東Bチームが優勝した。	10月 国際剣道大会が日本武道館で開催され、11カ国13団体が参加した。この時代の代表者会議において国際剣道連盟を設立することが決議された。		4月 東京都知事選で革新系候補美濃部亮吉当選。 6月 アラブ諸国とイスラエル間の第3次中東戦争起こる。 8月 東南アジア諸国連合(ASEAN)結成。
昭和43年	2月 全日本学生剣道連盟から『全日本学生剣道連盟40周年記念誌』が発行された。この時の総加盟校は166校となった。 6月 第16回全日本学生剣道選手権大会と第2回全日本女子学生剣道選手権大会が日本武道館で開催され、男子は関西学院大学の神谷明文、女子は国士館大学の古場美智子が優勝した。東西対抗戦は東軍が不戦7で勝利を収めた。 1月 第16回全日本学生剣道優勝大会が大阪市中央体育館で開催され、国士館大学が優勝した。	6月 全日本剣道連盟は、ハワイ移民百年祭記念剣道大会に11人の使節団を派遣した。 7月 全日本剣道連盟は明治百年記念剣道大会を日本武道館で開催し、同時に物故慰霊祭並びに現存功労者の表彰を行った。		4月 米黒人運動指導者キング牧師暗殺。 4月 小笠原諸島返還協定調印。 5月 フランス、パリで学生デモ。5月革命。 8月 ソ連軍など東欧5ヵ国(除ルーマニア)軍がチェコに侵入。 10月 明治百年祭。
昭和44年	6月 第17回全日本学生剣道選手権大会が大阪市中央体育館で開催され、中央大学の野嶋崎昭が優勝した。東西対抗戦は西軍が不戦2で勝利を収めた。 8月 第2回全日本学生地域対抗剣道大会が愛知県体育館で開催され、東海Aチームが優勝した。 1月 第17回全日本学生剣道優勝大会と第3回全日本女子学生剣道選手権大会が日本武道館で開催され、男子団体は中央大学、女子個人は国士館大学の桑原永子が優勝した。	4月 全日本剣道連盟は称号審査規程および段位審査規程を改正、また試合規則および審判規則の一部を改正し、それぞれを4月1日から実施した。 10月 全日本剣道連盟は、沖縄、台湾に観音使節団22人を派遣した。		1月 機動隊、東大安田講堂の封鎖解除。 5月 東名高速道路全通。 7月 アメリカ、アポロ11号が月面着陸に成功。人類が月面を初歩行した。
昭和45年 (1970年)	6月 第18回全日本学生剣道選手権大会と第4回全日本女子学生剣道選手権大会が日本武道館で開催され、男子は日本大学の久保木優、女子は国士館大学の高原永子が連続優勝した。 1月 第18回全日本学生剣道優勝大会が大阪市中央体育館で開催され、国士館大学が優勝した。	4月 4日に国際剣道連盟の創立総会が17カ国代表の参加によって東京ヒルトンホテルで開催された。 4月 5日に第1回世界剣道選手権大会東京大会(個人戦)が日本武道館で、6日には同大会(団体戦)が大阪市中央体育館で行われ、団体、個人ともに日本代表が優勝した。 8月 第1回全国中学校選抜剣道大会が日本武道館で開催された。		3月 日本万国博覧会を大阪で開催。赤軍派が日航機をハイジャック、北朝鮮に亡命。 6月 日米安全保障延長。 11月 三島由紀夫がクーデター未遂事件で刑罰自殺。
昭和46年	6月 第19回全日本学生剣道選手権大会が大阪市中央体育館で開催され、福岡大学の島集健が優勝した。東西対抗戦は西軍が不戦2で勝利を収めた。 7月 第3回全日本学生地域対抗剣道大会が名古屋市体育館で開催され、東海Aチームが優勝した。			6月 沖縄返還協定調印。 8月 円の実効相場移行を決定。 10月 中国、国連加盟。 12月 インド・パキスタン戦争起こる。

昭和47年	<p>11月 第19回全日本学生剣道優勝大会と第5回全日本女子学生剣道選手権大会が日本武道館で開催され、男子団体は専修大学が、女子個人は国士館大学の佐藤昌恵が優勝した。</p> <p>7月 第20回全日本学生剣道選手権大会と第6回全日本女子学生剣道選手権大会が日本武道館で開催され、男子は国士館大学の氏家道男、女子は同じく国士館大学の百峰美智子が優勝した。</p> <p>10月 第20回全日本学生剣道優勝大会が大阪市中央体育館で開催され、国士館大学が優勝した。</p>		<p>5月 沖縄の施政権返還、沖縄県発足。</p> <p>9月 日中国交正常化の共同声明。</p> <p>12月 東西ドイツが関係正常化基本条約調印。</p>
昭和48年	<p>6月 第21回全日本学生剣道選手権大会が大阪市中央体育館で開催され、同志社大学の矢野雅彦が優勝した。東西対抗戦は西軍が不戦1で勝利を収めた。</p> <p>7月 第4回全日本学生地域対抗剣道大会が名古屋市体育館で開催され、関東Aチームが優勝した。</p> <p>10月 第21回全日本学生剣道優勝大会と第7回全日本女子学生剣道選手権大会が日本武道館で開催され、男子団体は慶應義塾大学、女子個人は国士館大学の黒原厚子が優勝した。</p>	<p>5月 沖縄復帰記念特別剣道大会が那覇高校体育館で行われた。</p>	<p>1月 バリでベトナムと平和協定調印。</p> <p>10月 第4次中東戦争。</p> <p>11月 第1次オイルショックで狂乱物価現象。</p>
昭和49年	<p>6月 第22回全日本学生剣道選手権大会と第8回全日本女子学生剣道選手権大会が日本武道館で開催され、男子は国士館大学の宮沢保徳、女子は東海大学の小松律子が優勝した。東西対抗戦は東軍が不戦14で勝利を収めた。</p> <p>10月 第22回全日本学生剣道優勝大会が大阪市中央体育館で開催され、専修大学が優勝した。</p>	<p>1月 第1回高段者研究会が東京四谷番町共済会館で開催された。</p> <p>10月 財団法人全日本剣道連盟が設立された。</p>	<p>8月 アメリカ、ニクソン大統領がウォーターゲート事件で辞任。</p> <p>12月 佐藤栄作がノーベル平和賞受賞。</p>
昭和50年 (1975年)	<p>この年、河合亮晴氏が2代目の会長に就任された。</p> <p>7月 第23回全日本学生剣道選手権大会と第9回全日本女子学生剣道選手権大会が大阪市中央体育館で開催され、男子は慶應義塾大学の町吉幸、女子は国士館大学の上村直子が優勝した。東西対抗戦は西軍が大行戦の結果勝利を収めた。</p> <p>7月 第5回全日本学生地域対抗剣道大会が名古屋市体育館で開催され、東海Aチームが優勝した。</p> <p>10月 第23回全日本学生剣道優勝大会が日本武道館で開催され、法政大学が優勝した。</p>	<p>4月 中華民国剣道復健団15名が来日した。</p> <p>5月 「剣道の理念」「剣道修練の心構え」が制定された。</p> <p>8月 ニューヨーク剣道武者修行団14名が来日した。</p> <p>8月 第1回外国人剣道指導者研修会が解散会館で開催された。</p>	<p>4月 南ベトナム、サイゴン陥落し、ベトナム戦争終結。</p> <p>7月 米、ソ宇宙船ドッキング。</p> <p>11月 バリ郊外で第1回先連6カ国首脳会議。</p>
昭和51年	<p>6月 第24回全日本学生剣道選手権大会と第10回全日本女子学生剣道選手権大会が日本武道館で開催され、男子は大東文化大学の平井節朗、女子は東京教育大学の堀部あけみが優勝した。東西対抗戦は東軍が不戦12で勝利を収めた。</p> <p>10月 第24回全日本学生剣道優勝大会が大阪市中央体育館で開催され、専修大学が優勝した。</p>	<p>7月 財団法人全日本学校剣道連盟が設立された。</p> <p>8月 台湾剣道復健団が来日した。</p> <p>12月 幼少年剣道指導要領を発行した。</p>	<p>4月 中国で天安門事件、鄧小平失脚。</p> <p>5月 ロッキード疑獄事件。</p> <p>7月 ベトナム社会主義共和国成立。</p> <p>10月 中国、王洪文、汪青ら4人逮捕。</p>
昭和52年	<p>6月 第25回全日本学生剣道選手権大会が大阪市中央体育館で開催され、松山商科大学の大城戸功が優勝した。東西対抗戦は東軍が不戦5で勝利を収めた。</p> <p>7月 第6回全日本学生地域対抗剣道大会が名古屋市体育館で開催され、東海チームが優勝した。</p> <p>10月 第25回全日本学生剣道優勝大会と第11回全日本女子学生剣道選手権大会が日本武道館で開催され、男子団体は国士館大学、女子個人は筑波大学の堀部あけみが連続優勝した。</p>	<p>4月 武道協議会の発会式が日本武道館で開催された。</p> <p>6月 理事会、評議員会で、剣道試合、審判規則一部改正案が承認されたが、施行時期は未定。</p> <p>9月 第1回全日本少年武道(剣道)練成</p>	<p>5月 領海12カイリ法・漁業水域200カイリ暫定措置法成立。</p> <p>8月 中国共産党11全大会、文化大革命終結。</p> <p>11月 エジプトのサダト大統領がイスラエル訪問。</p>
昭和53年	<p>7月 第26回全日本学生剣道選手権大会と第12回全日本女子学生剣道選手権大会が日本武道館で開催され、男子は同志社大学の岸本隆徳、女子は北海道女子短期大学の裏館保樹が優勝した。東西対抗戦は東軍が不戦12で勝利を収めた。</p> <p>7月 第7回全日本学生地域対抗剣道大会が広島市の東洋工業体育館で開催され、関東チームが優勝した。</p> <p>またこの年から全日本女子学生の地域対抗剣道大会(第1回)が同時に開催されるようになり、関東チームが優勝した。</p> <p>10月 第26回全日本学生剣道優勝大会が大阪市中央体育館で開催され、中央大学が優勝した。</p>	<p>2月 国会議員有志により武道議員連盟が結成された。</p> <p>2月 19日に第1回古武道演武大会が日本武道館で開催された。</p>	<p>5月 新東京国際空港(成田)が正式に開港。</p> <p>8月 北京で日中平和友好条約調印。</p> <p>9月 アメリカ・イスラエル・エジプトが中東和平会談(キャンプデービッド合意)。</p>
昭和54年	<p>6月 第27回全日本学生剣道選手権大会が大阪市中央体育館で開催され、国士館大学の中野聖司が優勝した。東西対抗戦は東軍が不戦5で勝利を収めた。</p> <p>7月 第8回全日本学生地域対抗剣道大会と第2回全日本女子学生地域対抗剣道大会が名古屋市体育館で開催され、男子は関東、女子は九州が優勝した。</p> <p>10月 第27回全日本学生剣道優勝大会と第13回全日本女子学生剣道選手権大会が日本武道館で開催され、男子団体は法政大学、女子個人は日本体育大学の左産健美が優勝した。</p>	<p>1月 第1回全国スポーツ少年団剣道交流大会が代々木オリンピック記念青少年総合センターで開催された。</p> <p>4月 1日から新しい剣道試合・審判規則が実施された。</p> <p>10月 日本武道館開館十五周年記念剣道範士八段選抜優勝大会が日本武道館で開催され、伊保清次範士八段が優勝した。</p>	<p>1月 アメリカ・中国の国交樹立。</p> <p>イラン革命、ホメイニ主義権確。</p> <p>3月 エジプト・イスラエル平和条約。</p> <p>6月 東京サミット(第五回先進国首脳会議)。</p> <p>10月 朴鍾大大統領辞職。</p> <p>12月 ソ連軍がアフガニスタン侵攻。</p>
昭和55年	<p>この年、松本敏夫氏が3代目の会長に就任された。</p>	<p>12月 理事会、評議員会で科学委員会の設</p>	<p>5月 韓国、デモ隊占拠の光州市に戒厳令</p>

<p>(1980年)</p>	<p>長に就任された。</p> <p>6月 第28回全日本学生剣道選手権大会と第14回全日本女子学生剣道選手権大会が日本武道館で開催され、男子は中央大学の石本公宏、女子は筑波大学の内田弥生が優勝した。東西対抗は西軍が不戦1で勝利を収めた。</p> <p>7月 第9回全日本学生地域対抗剣道大会と第3回全日本女子学生地域対抗剣道大会が石川県立武道館で開催され、男女ともに関東が優勝した。</p> <p>10月 第28回全日本学生剣道優勝大会が大阪市中央体育館で開催され、筑波大学が優勝した。</p>	<p>置が承認された。</p>	<p>軍突入、光州事件。</p> <p>7月 モスクワオリンピック、米、中、日などがボイコット。</p> <p>9月 イラン・イラク戦争始まる。</p>
<p>昭和56年</p>	<p>7月 第29回全日本学生剣道選手権大会が大阪市中央体育館で開催され、筑波大学の山中洋介が優勝した。東西対抗戦は東軍が大得意の結果勝利を収めた。</p> <p>7月 第10回全日本学生地域対抗剣道大会と第4回全日本女子学生地域対抗剣道大会が名古屋市のナオリ会館で開催され男子は九州、女子は東海が優勝した。</p> <p>10月 第29回全日本学生剣道優勝大会と第15回全日本女子学生剣道選手権大会が日本武道館で開催され、男子団体は中央大学、女子個人は筑波大学の原田敦子が優勝した。</p>	<p>6月 剣道試合・審判規則の一部改正された。</p> <p>9月 試合・審判委員会が新設された。</p>	<p>3月 第2次臨時行政調査会発足、会長土光敏夫。</p> <p>10月 エジプト、サグト大統領暗殺。</p> <p>12月 ポーランドで威厳令、労働組合活動の禁止布告。</p>
<p>昭和57年</p>	<p>7月 第30回全日本学生剣道選手権大会と第16回全日本女子学生剣道選手権大会が日本武道館で開催され男子は同志社大学の佐藤昭、女子は東海大学の山口竜子が優勝した。東西対抗戦は東軍が不戦4で勝利を収めた。なお、この30回大会の運営加盟校は全国8ブロック334校を擁し、北海道連盟(31)、東北連盟(27) 関東連盟(92)、東海連盟(30) 北信越連盟(16)、関西連盟(63) 中国・四国連盟(30)、九州連盟(45)となっている。</p> <p>7月 第11回全日本学生地域対抗剣道大会と第5回全日本女子学生地域対抗剣道大会が仙台市勤労者体育館で開催され、男子は関東、女子は関西が優勝した。</p> <p>10月 第30回全日本学生剣道優勝大会が大阪市中央体育館で開催され、大阪体育大学が優勝した。</p> <p>11月 この年、第1回の全日本女子学生剣道優勝大会が名古屋市体育館で開催され、国士館大学が優勝した。</p>	<p>6月 全日本剣道連盟の30周年記念行事として、物故者慰霊祭、表彰式、剣道選手権者選抜優勝大会を日本武道館で実施した。</p> <p>6月 『30年史』を出版した。</p>	<p>4月 アルゼンチン軍、イギリスとフォークランド紛争。</p> <p>イスラエルがシナイ半島をエジプトに全面返還。</p> <p>6月 アメリカで1986年スバイ事件。</p> <p>7月 中国が教科書検定問題で正式抗議。国際捕鯨委員会が商業捕鯨全面禁止案可決。</p>
<p>昭和58年</p>	<p>7月 第31回全日本学生剣道選手権大会と第17回全日本女子学生剣道選手権大会が大阪市中央体育館で開催され、男子は大阪体育大学の石田利也、女子は筑波大学の田中美和が優勝した。東西対抗戦は西軍が不戦3で勝利を収めた。</p> <p>10月 第31回全日本学生剣道優勝大会が日本武道館で開催され、国士館大学が優勝した。</p> <p>11月 第2回全日本女子学生剣道優勝大会が名古屋市露橋スポーツセンターで開催され、国士館大学が優勝した。</p>	<p>11月 済寧館創設百周年記念武道大会が、天皇陛下の行幸を仰いで実施された。</p>	<p>9月 サハリン沖で、ソ連領空を侵犯した大韓航空機がソ連軍機に撃墜される。死者269人。</p> <p>10月 東京地裁、ロッキード事件で田中元富相に有罪判決。懲役4年・追徴金5億円の実刑判決。</p>
<p>昭和59年</p>	<p>7月 第32回全日本学生剣道選手権大会と第18回全日本女子学生剣道選手権大会が日本武道館で開催され、男子は筑波大学の佐賀聖、女子も同じく筑波大学の藤田弘美が優勝した。東西対抗戦は東軍が不戦1で勝利を収めた。</p> <p>7月 これまで毎年行われていた地域対抗戦が隔年実施となった。第12回全日本学生地域対抗剣道大会、第6回全日本女子学生地域対抗剣道大会が北海道立真駒内アイスアリーナで開催され、男子は関東、女子は東海が優勝した。</p> <p>10月 第32回全日本学生剣道優勝大会が大阪市中央体育館で開催され、国士館大学が優勝した。</p> <p>11月 第3回全日本女子学生剣道優勝大会が名古屋市露橋スポーツセンターで開催され、筑波大学が優勝した。</p>	<p>3月 全日本剣道選手権大会の出場資格を六段以上に制限すること、判定を採用することが決定した。</p> <p>6月 「日本剣道形の指導上の留意点」が決定した。</p> <p>8月 第1回全国家庭婦人剣道大会が日本武道館で開催された。</p>	<p>1月 アフリカの飢饉拡大。</p> <p>3月 江崎グリコ社長誘拐事件。</p> <p>7月 ロサンゼルス・オリンピック、ソ連連盟15ヶ国がボイコット。</p> <p>8月 臨時教育審議会発足、会長岡本道雄。</p> <p>10月 インド、インディラ・ガンディー首相がシーク教徒に暗殺される。</p> <p>12月 イギリスと中国、1997年香港返還に正式印印。</p>
<p>昭和60年 (1985年)</p>	<p>7月 第33回全日本学生剣道選手権大会と第19回全日本女子学生剣道選手権大会が大阪市中央体育館で開催され、男子は中央大学の中山睦友、女子は金沢大学の稲田陽子が優勝した。東西対抗戦は東軍が不戦5で勝利を収めた。</p> <p>10月 第33回全日本学生剣道優勝大会が日本武道館で開催され、中央大学が優勝した。</p> <p>11月 第4回全日本女子学生剣道優勝大会が名古屋市露橋スポーツセンターで開催され、国士館大学が優勝した。</p>	<p>6月 「日本剣道形審査上の着眼点」「剣道試合運営について」が決定された。</p>	<p>3月 ソ連、チェルネンコ書記長死去、後任ゴルバチョフ。</p> <p>4月 N T T・日本たばこ産業会社発足。</p> <p>5月 男女雇用機会均等法成立。</p> <p>8月 日航機墜落、死者520人。</p> <p>11月 コロンビア、ネバドデイルイス火山噴発。</p>
<p>昭和61年</p>	<p>7月 第34回全日本学生剣道選手権大会と第20回全日本女子学生剣道選手権大会が日本武道館で開催され、男子は国士館大学の宮本敏雄、女子は筑波大学の藤智子が優勝した。東西対抗戦は東軍が不戦6で勝利を収めた。</p> <p>7月 第13回全日本学生地域対抗剣道大会と第7回全日本女子学生地域対抗剣道大会が福岡市の武道館で開催され、男</p>	<p>6月 試合規則の一部が改正された。</p> <p>9月 試合・審判規則改正のための特別委員会が発足した。</p>	<p>1月 アメリカ、スペースシャトル・チャレンジャー1号噴発。</p> <p>2月 フリッツピン、マルコス政権崩壊。アキノ新大統領。</p> <p>スウェーデン、ハルメ首相暗殺。</p> <p>4月 ソ連、チェルノブイリ原発事故。</p>

昭和62年

女とも関東が優勝した。

10月 第34回全日本学生剣道優勝大会が大阪市中央体育館で開催され、筑波大学が優勝した。

11月 第5回全日本女子学生剣道優勝大会が名古屋市霧橋スポーツセンターで開催され、中京大学が優勝した。

この年、丸山義一氏が四代目の会長に就任された。

7月 第35回全日本学生剣道選手権大会と第21回全日本女子学生剣道選手権大会が大阪市中央体育館で開催され、男子は国士館大学の染谷恒治、女子は東海大学の森内歩美が優勝した。東西対抗は西軍が不戦4で勝利を収めた。

10月 第35回全日本学生剣道優勝大会が日本武道館で開催され、国士館大学が優勝した。

3月 「アマチュア規定」に代えて、「全剣道登録者規定」を制定した。

4月 改定「剣道試合・審判規則」を制定した。

5月 全日本女子剣道選手権大会を都道府県対抗剣道大会から分離独立させ、大阪の守口市体育館で開催した。

1月 神戸で初の日本女性エイズ患者が死亡。

4月 国鉄分割・民営化、JRグループ発足。

11月 大韓航空機がミャンマー上空で方向不明。

12月 レーガン・ゴルバチョフ会談、INF全廃条約調印。

昭和63年

11月 第6回全日本女子学生剣道優勝大会が名古屋市霧橋スポーツセンターで開催され、国士館大学が優勝した。

7月 第36回全日本学生剣道選手権大会と第22回全日本女子学生剣道選手権大会が日本武道館で開催され、男子は国士館大学の田中宏和、女子は東海大学の倉地富美恵が優勝した。東西対抗戦は35回目では上ははじめての引き分けとなった。

7月 第14回全日本学生地域対抗剣道大会、第8回全日本女子学生地域対抗剣道大会が広島市サンプラザで開催され、男子は関東、女子は関西が優勝した。

10月 第36回全日本学生剣道優勝大会が大阪府立体育館で開催され、中央大学が優勝した。

11月 第7回全日本女子学生剣道優勝大会が名古屋市霧橋スポーツセンターで開催され、東海大学が優勝した。

8月 第1回女子剣道指導者講習会を横浜市民防災センターで開催した。

9月 第1回高齢者剣道講習会を富山県富田武道館で開催した。

5月 アフガニスタン駐留ソ連軍撤退開始。

6月 リクルート事件発覚。

佐藤・ヤイター会談で3年後の日本の牛肉・オレンジ輸入自由化合意。

9月 ソウルオリンピックでベン・ジョンソンがドーピングテストの結果、金メダルをばく奪される。

昭和64年
(平成元年)

7月 第37回全日本学生剣道選手権大会と第23回全日本女子学生剣道選手権大会が大阪府立体育館で開催され、男子は筑波大学の松尾好郎、女子は青山学院大学の松下令子が優勝した。東西対抗戦は東軍が大得意の結果勝利を収めた。

10月 第37回全日本学生剣道優勝大会が日本武道館で開催され、国士館大学が優勝した。

11月 第8回全日本女子学生剣道優勝大会が名古屋市霧橋スポーツセンターで開催され、国士館大学が優勝した。

2月 文部省は、小、中、高校の学習指導要領改訂案を発表。体育の時間の増加と武道の名称が復活することになった。

3月 次段位受審の延長を繰り込んだ「称号審査規程・段位審査規程」が改定された。

11月 全国健康福祉祭りおおいだ大会で、高齢者だけの第1回剣道観善交流大会が開催された。

1月 昭和天皇が崩御され、明仁親王が即位。新元号が「平成」と決定された。

4月 消費税実施。

6月 中国、天安門広場で戒厳令が武力制圧。

9月 地球環境保全の東京会議。

11月 ベルリンの壁崩壊。

平成2年
(1990年)

7月 第38回全日本学生剣道選手権大会と第24回全日本女子学生剣道選手権大会が日本武道館で開催され、男子は東海大学の裕裕二、女子は大阪体育大学の長野忍が優勝した。東西対抗戦は東軍が不戦4で勝利を収めた。

7月 第15回全日本学生地域対抗剣道大会、第9回全日本女子学生地域対抗剣道大会が福井県立武道館で開催され、男子・女子ともに関東が優勝した。

10月 第38回全日本学生剣道優勝大会が京都市体育館で開催され、筑波大学が優勝した。

11月 第9回全日本女子学生剣道優勝大会が名古屋市霧橋スポーツセンターで開催され、国士館大学が優勝した。

6月 全日本剣道選手権大会の出場資格を緩和し、本年度より五段の出場を認めることが決定された。

3月 ゴルバチョフ大統領就任。

8月 イラク軍がクウェート領内に侵攻、クウェート併合宣言。

10月 東西ドイツ統一、初代大統領にワイゼッカー就任。

平成3年

この年、松本良輝氏が5代目の会長に就任された。

7月 第39回全日本学生剣道選手権大会と第25回全日本女子学生剣道選手権大会が大阪府立体育館で開催され、男子は筑波大学の有田祐二、女子は中央大学の川畑百重が優勝した。東西対抗戦は東軍が不戦2で勝利を収めた。

10月 全日本学生剣道連盟は、試合における二刀の使用禁止解除の決定を行った。

10月 第39回全日本学生剣道優勝大会が日本武道館で開催され、筑波大学が優勝した。

11月 全日本女子学生剣道優勝大会が名古屋市霧橋スポーツセンターで開催され、鹿屋体育大学が優勝した。

2月 『全剣道広報』を『剣道』と改題。広く一般剣道愛好者を対象とする月刊誌を目指すこととなった。

4月 九段北3丁目のN T T九段庁舎の中に、登録、国際、広報の事務を扱う分室を開設した。

12月 関東女子社会人懇親大会が発足、第1回大会が羽田の荏原製作所体育館で開催された。

1月 多国籍軍がイラク爆撃開始、湾岸戦争突入。

5月 インド、ラジブ・ガンジー暗殺。

6月 ロシア、エリツィン大統領就任。

フィリピンのピナツボ火山大噴火。南ア国会在アバルトヘイト終告を宣言。

12月 「ソ連邦」消滅し、69年の歴史に幕を閉じた。

平成4年

7月 第40回全日本学生剣道選手権大会と第26回全日本女子学生剣道選手権大会が日本武道館で開催され、男子は中央大学の山下忠典、女子は中央大学の川畑百重が前年に続いて優勝した。東西対抗戦は東軍が不戦1で勝利を収めた。

7月 第16回全日本学生地域対抗剣道大会、第10回全日本女子学生地域対抗剣道大会が宮城県スポーツセンターで開催され、男子は九州、女子は関西が優勝した。なお、この年をもって全日本地域対抗剣道大会は男女ともその幕を閉じるようになった。

10月 第40回全日本学生剣道優勝大会が尼崎市記念総合体育館で開催され、中央大学が優勝した。

11月 第11回全日本女子学生剣道優勝大会が名古屋市霧橋スポーツセンターで開催され、東海大学が優勝した。

5月 第40回を迎えた京都大会の名称を全日本剣道演武大会と改め、明治28年にはじまった武徳会の大会から通算して、第88回演武大会とした。

6月 新事業として剣道八段研修会を開催。新八段を中心として埼玉県民活動総合センターで3日間わたって実施した。

12月 全剣道設立40周年記念式典並びに祝賀会を帝国ホテルで開催した。また、『全剣道40年史』（剣道界と全剣道のあゆみこの40年）を出版した。

2月 マーストリヒト条約（欧州連合条約）調印、翌年11月発効。

4月 旧ユーゴスラビア解体。

6月 P K O協力法案成立。

8月 中国、韓国国交復立。

9月 カンボジアP K O派遣。毛利輝一、スペースシャトル「エンデバー」で宇宙へ。

10月 天皇・皇后、中国訪問。

平成5年	<p>6月 第41回全日本学生剣道選手権大会と第27回全日本女子学生剣道選手権大会が大府立体育館で開催され、男子は国士館大学の安藤成牛、女子は鹿屋体育大学の谷山百合香が優勝した。東西対抗戦は東軍が大府戦で勝利を収めた。</p> <p>10月 第41回全日本学生剣道優勝大会が日本武道館で開催され、法政大学が優勝した。 『全日本学生剣道連盟 40周年記念誌』を発行する。</p> <p>11月 第12回全日本女子学生剣道優勝大会が愛知県武道館で開催され、鹿屋体育大学が優勝した。</p>	<p>6月 大島 功会長の死去に伴い、影山二郎氏を会長に選任した。</p> <p>10月 9千人余の全国七段以上の高段者名簿を初めて刊行した。</p>	<p>6月 皇太子、小和田理子妃と結婚。</p> <p>7月 北海道西南沖地震、死者202人。</p> <p>8月 細川護国閣内閣発足。</p> <p>10月 凶作のためコメの緊急輸入始まる。</p>
平成6年	<p>7月 第42回全日本学生剣道選手権大会と第28回全日本女子学生剣道選手権大会が日本武道館で開催され、男子は前年に続いて国士館大学の安藤成牛、女子も国士館大学の高松明美が優勝した。東西対抗戦は東軍が大府戦で勝利を収めた。</p> <p>10月 第42回全日本学生剣道優勝大会が大府立体育館で開催され、中央大学が優勝した。</p> <p>11月 第13回全日本女子学生剣道優勝大会が愛知県武道館で開催され、筑波大学が優勝した。</p>	<p>10月 剣道社会体育指導員認定制度が文部省に認可された。</p> <p>11月 これまで年1回京都だけで行われてきた剣道八段審査が東京でも実施することとなる。</p>	<p>4月 羽田改内閣発足。</p> <p>5月 ユーロトンネル開通。</p> <p>6月 村山富市内閣発足。</p> <p>9月 関西空港開港。</p> <p>10月 北海道東方沖地震。</p>
平成7年 (1995年)	<p>7月 第43回全日本学生剣道選手権大会と第29回全日本女子学生剣道選手権大会が大府立体育館で開催され、男子は筑波大学の菊川省吾、女子も筑波大学の村山千夏が優勝した。東西対抗戦は西軍が大府戦で勝利を収めた。</p> <p>10月 第43回全日本学生剣道優勝大会が日本武道館で開催され、国士館大学が優勝した。</p> <p>11月 第14回全日本女子学生剣道優勝大会が愛知県武道館で開催され、福岡教育大学が優勝した。</p>	<p>阪神・淡路大震災に対し、全剣連として、募金を送る。</p> <p>3月 剣道試合・審判規則を8年ぶりに改定、7月からの実施とする。</p> <p>5月 剣道八段実務資格の年齢基準の48歳以上を46歳以上に改めて実施、合格者10名の内5名は48歳未満であった。</p> <p>11月 剣道人の新しい顕彰制度による剣道功労賞、剣道有功賞を贈呈する。 全日本剣道選手権大会の出場資格を、20歳以上は段位に拘わらず出場できることとした。</p> <p>11月 全日本剣道選手権大会に天皇・皇后両陛下の行幸啓を頂く。</p>	<p>1月 阪神・淡路大震災、死者約6千人。</p> <p>3月 地下鉄サリン事件起る。</p> <p>5月 サハリン地震、死者約2千人。 中国、地下核実験。</p> <p>8月 中国、地下核実験。</p> <p>9月 仏国、ムルロア環礁で地下核実験。</p> <p>10月 仏国、ファンガタウファ環礁で地下核実験開始、翌1月まで計6回。</p>
平成8年	<p>7月 第44回全日本学生剣道選手権大会と第30回全日本女子学生剣道選手権大会が日本武道館で開催され、男子は同志社大学の立花義人、女子は筑波大学の小林弓子が優勝した。東西対抗戦は西軍が不戦4で勝利を収めた。</p> <p>10月 第44回全日本学生剣道優勝大会が大府立体育館で開催され、近畿大学が優勝した。</p> <p>11月 第15回全日本女子学生剣道優勝大会が愛知県武道館で開催され、筑波大学が優勝した。</p>		<p>1月 橋本龍太郎内閣発足。</p> <p>3月 秋田新幹線開通。</p> <p>7月 病原性大腸菌O157患者6千人を越す。</p> <p>9月 国連、包括的核実験禁止条約採択。</p> <p>10月 長野新幹線開通。</p> <p>12月 ベルー日本人大使公邸で人質事件。</p>
平成9年	<p>この年、山本憲道氏が6代目の会長に就任された。</p> <p>6月 第45回全日本学生剣道選手権大会と第31回全日本女子学生剣道選手権大会が大府立体育館で開催され、男子は日本大学の岩見務、女子は福岡教育大学の梅津智子が優勝した。東西対抗戦は東軍が大府戦で勝利を収めた。</p> <p>10月 第45回全日本学生剣道優勝大会が日本武道館で開催され、筑波大学が優勝した。</p> <p>11月 第16回全日本女子学生剣道優勝大会が愛知県武道館で開催され、鹿屋体育大学が優勝した。</p>	<p>影山二郎会長の選任に伴い、武安義光氏を会長に選任した。</p> <p>9月 全日本女子剣道選手権大会の優勝者に初の皇后杯が授与された。</p> <p>10月 第1回写真コンテストを開始した。</p>	<p>6月 臓器移植法成立。</p> <p>8月 ダイアナ元皇太子妃、交通事故死。</p> <p>11月 北海道拓根破壊、山一証券自主廃業。</p> <p>12月 対人地雷全面禁止条約採択。</p>
平成10年	<p>この年、橋本龍太郎氏が7代目の会長に就任された。</p> <p>7月 第46回全日本学生剣道選手権大会と第32回全日本女子学生剣道選手権大会が日本武道館で開催され、男子は明治大学の北条志臣、女子は早稲田大学の小野京子が優勝した。東西対抗戦は東軍が不戦1で勝利を収めた。</p> <p>10月 第46回全日本学生剣道優勝大会が大府立体育館で開催され、明治大学が優勝した。</p> <p>11月 第17回全日本女子学生剣道優勝大会が愛知県武道館で開催され、鹿屋体育大学が前年に続いて優勝した。</p>	<p>2月 全剣連事務所を靖国九段南ビル2階に開設した。</p> <p>6月 第1回女子審判講習会を実施した。</p> <p>11月 全剣連ホームページを開設した。 初めての「竹刀および剣道具規格」の策案を得る。</p>	<p>4月 明石大橋開通。</p> <p>5月 インド・パキスタン地下核実験。</p> <p>7月 小淵恵三内閣発足。</p> <p>8月 北朝鮮、テポドン発射。</p>
平成11年	<p>3月 第1回全日本学生剣道オープン大会が金沢市総合体育館で2日間にわたり開催された。大会の内容は、男女別に初段以下、2段、3段以上の部に分けられ、当連盟に登録する学生であれば誰でも参加できるものとした。今後、この大会は隔年で行うこととした。</p> <p>6月 第47回全日本学生剣道選手権大会と第33回全日本女子学生剣道選手権大会が大府立体育館で開催され、男子は国士館大学の権坂功泰、女子は福岡教育大学の河野朋子が優勝した。東西対抗戦は西軍が不戦2で勝利を収めた。</p> <p>9月 剣道部宿舎において上級生による下級生への暴行致死事件が発生した。</p> <p>10月 第47回全日本学生剣道優勝大会が日本武道館で開催され、鹿屋体育大学が優勝した。</p> <p>11月 第18回全日本女子学生剣道優勝大会が愛知県武道館で開催され、鹿屋体育大学が3年連続して優勝した。</p>	<p>4月 「剣道試合・審判規則、細則、付随要領」が制定、施行される。</p> <p>5月 京都武徳殿の建立百周年記念式典を行い、武徳殿南側に記念碑を建てる。</p> <p>6月 「剣道称号・段位審査規則」が制定される。</p> <p>11月 「剣道称号・段位審査細則、付随要領」が制定される。</p>	<p>2月 原子力発電量が火力発電量を抜く。</p> <p>5月 瀬戸内しまなみ海道開通。</p> <p>8月 国旗・国歌法成立。</p> <p>9月 核燃料工場で国内初の臨界事故。 台湾大地震、死者約2千4百人。</p>

<p>平成12年 (2000年)</p>	<p>7月 第48回全日本学生剣道選手権大会と第37回全日本女子学生剣道選手権大会が日本武道館で開催され、男子は筑波大学の宮川寛次、女子は鹿屋体育大学の岡田圭が優勝した。東西対抗戦は東軍が大得意で勝利を収めた。</p> <p>10月 第48回全日本学生剣道優勝大会が大阪府立体育館で開催され、明治大学が優勝した。</p> <p>11月 第19回全日本女子学生剣道優勝大会が愛知県武道館で開催され、鹿屋体育大学が4年連続して優勝した。</p> <p>12月 昭和61年3月から実施していた評議員制度を理事会制度に移行した。</p>	<p>4月 剣道称号・段位審査規則、細則ならびに実施要領が改訂、施行される。「範士」を最高位とした。</p> <p>6月 称号・段位審査規則の改定により廃止された、称号の追級に代わる制度として、顕彰状の贈呈に関する実施要領を決定した。</p> <p>9月 審判技術向上を通じ、剣道の質の向上を目指すため、基幹講師委員の研修会を実施した。</p> <p>11月 剣道社会体育指導員初級資格取得者を対象とする第1回「中級」養成講習会を実施した。</p>	<p>3月 有珠山噴火。</p> <p>4月 森喜朗内閣発足。</p> <p>6月 南北朝鮮両首脳が平壤で初会談。</p> <p>9月 三宅島再噴火、全島避難。</p>
<p>平成13年</p>	<p>7月 第49回全日本学生剣道選手権大会と第38回全日本女子学生剣道選手権大会が大阪府立体育館で開催され、男子は法政大学の田中純、女子は筑波大学の杉本早恵子が優勝した。東西対抗戦は西軍が大得意で勝利を収めた。</p> <p>第2回全日本学生剣道オープン大会が仙台市体育館で開催された。</p> <p>10月 第49回全日本学生剣道優勝大会が日本武道館で開催され、筑波大学が優勝した。</p> <p>なお、この大会の前日に全日本学連剣友会の発足式が行われた。</p> <p>11月 第20回全日本女子学生剣道優勝大会が愛知県武道館で開催され、鹿屋体育大学が5年連続して優勝した。</p> <p>なお、大会前日には今池ガスホールにおいて、本大会20周年記念事業として、橋本龍太郎会長により『21世紀を考える』と題する記念公演が行われた。</p>	<p>3月 六、七段審査科目の学科を今年から取り止めることを決定した。</p> <p>7月 41名の医学専門家の寄稿による『剣道医学Q&A』が刊行される。</p> <p>9月 米国で発生した同時多発テロに対し、日本赤十字社を通じ被災者に見舞金を贈呈した。</p>	<p>4月 小泉純一郎内閣発足。</p> <p>9月 米国ニューヨーク、ワシントン同時多発テロ起きる。</p> <p>10月 米英国がアフガニスタンのタリバンを空襲。翌月タリバン政権崩壊。</p>
<p>平成14年</p>	<p>7月 第50回全日本学生剣道選手権大会と第39回全日本女子学生剣道選手権大会が日本武道館で開催され、男子は中央大学の野口真志、女子は鹿屋体育大学の坪田祐佳が優勝した。東西対抗戦は当選型の50周年記念大会として、男子2組、女子5組の他、海外招待選手3組の対抗試合を実施した。男子は西軍が6対4引分10、女子も西軍が2対1引分2で勝利を収めた。</p> <p>なお、この大会日は狭心6日から8日にかけて、B&G海洋センターにおいて当選型創立50周年記念事業として、海外学生53名を招待し、「世界学生剣道観戦研修会」を開催、橋本龍太郎会長により『伝統分化としての剣道』と題する記念公演も行われた。</p> <p>また、大会当日には、ワーナー・ゴードン（和名悟道）氏の記念講演が行われた。なお、同氏には学生剣道普及発展の功績により、橋本会長より感謝状が贈呈された。</p> <p>10月 第50回全日本学生剣道優勝大会が大阪府立体育館で開催され、筑波大学が前年に続いて優勝した。</p> <p>11月 第21回全日本女子学生剣道優勝大会が愛知県武道館で開催され、筑波大学が優勝した。</p> <p>なお、この大会には常陸宮両殿下のご臨席を賜り、優勝大学主将が殿下から杯を賜った。</p>	<p>10月 『剣道試合・審判運営の手引き』が完成、頒布された。</p> <p>11月 例年の全日本剣道選手権大会に合わせ、全剣道設立50周年記念大会を2日間にわたって開催し、全日本選抜剣道八段優勝大会、外国人をも加えた各層の演武を行った。</p> <p>12月 全剣道設立50周年記念式典ならびに祝賀晩餐会を、九段のホテルグランドパレスで開催した。</p>	<p>1月 「ユーロ」欧州12カ国で流通開始。</p> <p>9月 小泉首相訪朝、金正日総書記拉致を謝罪。10月拉致被害者5人帰国。</p> <p>10月 チェチェン武装勢力、モスクワの劇場占拠事件。</p>
<p>平成15年</p>	<p>3月 第1回全日本学連剣道友会優勝大会が豊大日吉体育館で開催された。</p> <p>7月 第51回全日本学生剣道選手権大会と第40回全日本女子学生剣道選手権大会が大阪府立体育館で開催され、男子は関西大学の西村健、女子は筑波大学の興格舞が優勝した。東西対抗戦は東軍が大得意で勝利を収めた。</p> <p>10月 第51回全日本学生剣道優勝大会が日本武道館で開催され、大阪体育大学が優勝した。</p> <p>11月 第22回全日本女子学生剣道優勝大会が愛知県武道館で開催され、筑波大学が前年に続いて優勝した。</p> <p>第3回全日本学生剣道オープン大会が金沢市総合体育館で開催された。</p>	<p>1月 『剣道の歴史』を刊行した。</p> <p>『剣道映像博物館』の創設、「剣道殿堂」を設置した。</p> <p>2月 『日本剣道形解説書（英語版）』を発行した。</p> <p>4月 『剣道講習会資料（剣道指導法、日本剣道形）』を発行した。</p> <p>5月 剣道称号・段位審査規則、細則ならびに実施要領が改訂、施行される。『全剣道50年史』を刊行された。設立40年以降を中心とした「剣意」の抜粋による『剣意スペシャル』を刊行した。</p> <p>6月 『木刀による剣道基本技種古法』を発行した。</p> <p>12月 『剣道医学・救急ハンドブック』が完成、頒布した。</p>	<p>3月 米英軍、イラク攻撃開始。12月フセイン大統領を拘束。</p> <p>6月 有事関連3法成立。</p> <p>7月 国立大学法人法設立。</p> <p>9月 十勝沖地震。</p>
<p>平成16年</p>	<p>7月 『全日本学生剣道連盟 50周年記念誌 学連10年の歩み』を発行する。</p> <p>第52回全日本学生剣道選手権大会と第41回全日本女子学生剣道選手権大会が日本武道館で開催され、男子は中央大学の中澤圭介、女子は筑波大学の菊池沙織が優勝した。東西対抗戦は東軍が不戦1で勝利を収めた。</p> <p>10月 第52回全日本学生剣道優勝大会が大阪府立体育館で開催され、日本大学が優勝した。</p> <p>11月 第23回全日本女子学生剣道優勝大会が愛知県武道館で開催され、中央大学が優勝した。</p>	<p>3月 『剣道殿堂顕彰規定』を制定した。</p> <p>5月 第40回記念全日本剣道演武大会において、『全日本剣道演武大会のあゆみ一明治期』と『記念リーフレット』を参加者に配布した。</p> <p>10月 新潟県中越地震が発生し、全剣連より新潟県剣道連盟に対し、見舞金を贈る。</p>	<p>1月 鳥インフルエンザ騒動。</p> <p>2月 陸上自衛隊イラク・サマワ入り。</p> <p>5月 小泉首相平壤訪問、拉致被害者5人帰国。</p> <p>6月 有事関連7法成立。</p> <p>自衛隊の多国籍参加を決定。</p> <p>10月 新潟県中越地震、死者68人。</p> <p>12月 スマトラ沖大地震（M9）、インド洋沿岸に大津波死者12万人。</p>
<p>平成17年 (2005年)</p>	<p>7月 第53回全日本学生剣道選手権大会と第42回全日本女子学生剣道選手権大会が大阪府立体育館で開催され、男子は鹿屋体育大学の芹川勝也、女子は清和大学の鹿見由紀子</p>	<p>8月 「EXPO剣道フェスティバル」を開催した。</p> <p>『剣道学科審査の問題例と解答例（初段～五段）』を発行した。</p> <p>9月 年齢45歳以上、紳士七段以上、中級</p>	<p>2月 二酸化炭素削減の京都議定書発効。</p> <p>3月 福岡県西方沖地震。</p> <p>4月 西日本福知山線脱線事故。</p> <p>8月 ハリケーン・カトリック米ニューヨークに上陸、被害大。</p>

平成18年	<p>が優勝した。東西対抗戦は西軍が不戦2で勝利を収めた。</p> <p>10月 第5回全日本学生剣道優勝大会が日本武道館で開催され、鹿屋体育大学が優勝した。</p> <p>11月 第24回全日本女子学生剣道優勝大会が愛知県武道館で開催され、清和大学が優勝した。</p> <p>第4回全日本学生剣道オープン大会が塩釜市体育館で開催された。</p> <p>7月 橋本会長の急逝により、鳥居副会長が会長代行となる。</p> <p>第54回全日本学生剣道選手権大会と第40回全日本女子学生剣道選手権大会が日本武道館で開催され、男子は大阪体育大学の太石寛之、女子は筑波大学の佐久間陽子が優勝した。東西対抗戦は東軍が大得戦で勝利を収めた。</p> <p>10月 第54回全日本学生剣道優勝大会が大府府立体育館で開催され、日本大学が優勝した。</p>	<p>取得後4年以上を対象とする第1回社会体育指導員剣道(上級)養成講習会を実施した。</p> <p>11月 「日本アンチドーピング機構(JADA)」に加盟した。</p> <p>4月 「個人情報保護に関する方針」「個人情報保護規程」を制定、施行した。国際剣道連盟の国際競技団体連合(GAISF)加盟が承認された。国際剣道連盟の格付を「F1K」から「F1K」に変更した。F1Kは「世界アンチドーピング機構(WADA)」に批准した。</p> <p>5月 第1回女子審判法研修会を実施した。</p> <p>12月 台湾・台北で開催された第13回世界剣道選手権大会で男子団体で日本が不覚の3位となる。</p>	<p>10月 パキスタン大地震、死者約9万人。道路公団民営化、新会社発足。</p> <p>5月 ジャワ島地震、死者約6千人。 7月 陸上自衛隊、イラク撤収完了。 9月 阿倍晋三内閣発足。 10月 北朝鮮、地下核実験。</p>
平成19年	<p>11月 第25回全日本女子学生剣道優勝大会が愛知県武道館で開催され、埼玉大学が優勝した。</p> <p>この年、鳥居泰彦氏が8代目の会長に就任された。</p> <p>7月 この年から男女選手権大会を2日間開催とし、3年間を試行期間として関西連盟が主管することとした。この年は2日間を男女混合で実施した。</p> <p>第55回全日本学生剣道選手権大会と第41回全日本女子学生剣道選手権大会が大府府立体育館で開催され、男子は鹿屋体育大学の山城嵩彰、女子は筑波大学の佐久間陽子が前年に続いて優勝した。</p> <p>この年から東西対抗戦に女子10名による勝抜戦が開始され、この年は男女とも2日目の開催とした。男子は東軍が不戦4、女子は西軍が大得戦で勝利を収めた。</p> <p>この大会から応援席に掲げる各大学節旗の寸法を統一した。</p> <p>10月 第55回全日本学生剣道優勝大会が日本武道館で開催され、国士館大学が優勝した。</p> <p>11月 第26回全日本女子学生剣道優勝大会がスカイホール豊田で開催され、日本体育大学が優勝した。</p> <p>12月 第5回全日本学生剣道オープン大会が長野市ホワイトリングで開催された。</p>	<p>3月 「剣道指導の心構え」を制定した。「全日本剣道連盟アンチ・ドーピング規程」を制定した。</p> <p>7月 新潟県中越沖地震が発生し、全剣道より新潟県剣道連盟に対し、見舞金を贈る。</p>	<p>7月 新潟県中越沖地震、柏崎刈羽原発運転中止命令。 10月 郵政民営化。 11月 福田康夫内閣発足。 山中教授ら、iPS細胞作製。</p>
平成20年	<p>7月 2日間開催2年目の男女選手権大会および東西対抗戦は、初日を女子、2日目を男子として実施した。</p> <p>第6回全日本学生剣道選手権大会と第42回全日本女子学生剣道選手権大会は大府府立体育館で開催され、男子は国士館大学の轟中宏輔、女子は大府教育大学の堀内今日子が優勝した。</p> <p>東西対抗戦では男子は西軍が大得戦、女子は東軍が大得戦で勝利を収めた。</p> <p>10月 第56回全日本学生剣道優勝大会が日本武道館で開催され、国士館大学が前年に続いて優勝した。</p> <p>11月 第27回全日本女子学生剣道優勝大会が愛知県武道館で開催され、筑波大学が優勝した。</p>	<p>3月 『木刀による剣道基本技稽古法(英語版)』を発行した。 「武道必修化に向けた決断」を文部科学大臣に手渡した。 7月 「剣道指導要領」を発行。</p>	<p>2月 海自イージス艦あたご、進船と衝突。 5月 中国四川省大地震、死者・行方不明者約8万人。 6月 東京秋葉原で無差別殺傷事件。 9月 麻生大内閣発足。 リーマンブラザーズ経営破綻。 10月 米国金融危機深刻化。各国公的資金を金融機関に投入。 11月 航空自衛隊、イラクから撤収。</p>
平成21年	<p>7月 2日間開催3年目の男女選手権大会および東西対抗戦は、前年度大会方式が好評であったため、再度初日を女子、2日目を男子として実施した。</p> <p>第7回全日本学生剣道選手権大会と第43回全日本女子学生剣道選手権大会が大府府立体育館で開催され、男子は筑波大学の西村美久、女子は日本体育大学の西野純が優勝した。</p> <p>東西対抗戦では男子は東軍が大得戦、女子は西軍が大得戦で勝利を収めた。</p> <p>10月 第57回全日本学生剣道優勝大会が日本武道館で開催され、鹿屋体育大学が優勝した。</p> <p>11月 第28回全日本女子学生剣道優勝大会が春日井市総合体育館で開催され、筑波大学が前年に続いて優勝した。</p> <p>12月 第6回全日本学生剣道オープン大会が仙台市体育館で開催された。</p>	<p>4月 中学校における剣道指導手引書『剣道授業の展開』を発行した。 12月 『剣道指導の手引(二刀編)』を発行した。</p>	<p>4月 米国とメキシコで新型インフルエンザ発生、各国に拡大。 9月 鳩山由紀夫内閣発足。 新型インフルエンザ国内で流行。 11月 オバマ米大統領発着。</p>
平成22年 (2010年)	<p>7月 この年から関東連盟も男女選手権大会を2日間開催とする準備が整ったため、再び関東および関西連盟が1年交代で主催することとした。また、今後の大会においても初日を女子、2日目を男子として実施することとした。</p> <p>第58回全日本学生剣道選手権大会と第44回全日本女子学生剣道選手権大会が日本武道館で開催され、男子は鹿屋体育大学の木谷洋介、女子も鹿屋体育大学の橋本恵が優勝した。</p> <p>東西対抗戦では男子(第57回)は東軍が不戦5、女子(第4回)も東軍が不戦3で勝利を収めた。</p> <p>10月 第58回全日本学生剣道優勝大会が大府府立体育館で開催され、早稲田大学が優勝した。</p> <p>11月 第29回全日本女子学生剣道優勝大会が春日井市総合体育館で開催され、早稲田大学が優勝した。</p>	<p>9月 スポーツアコード・コンバットゲームズ(世界武術大会)が中国・北京で103団体を集めて開催された。剣道もF1Kとして120名が参加し、演武・試合により剣道の文化的価値を一般にPRした。</p>	<p>1月 ハイチ大地震、死者31万余名。 2月 テリ大地震、死者約8百人。 6月 菅直人内閣発足。 8月 パキスタン大洪水、自衛隊派遣。 9月 尖閣諸島沖で海上保安庁の巡視船に中国漁船が衝突。 10月 テリ、崑崙山落盤事故、70日ぶりに全員生還。 11月 北朝鮮、韓国の延坪島を砲撃。</p>
平成23年	<p>3月 11日の東日本大震災により、東北連盟が多大な被害を受けた。当連盟</p>	<p>大震災義援金として岩手・宮城・福島3県の剣道に各250万円、そ</p>	<p>1月 チュニジア独裁体制崩壊。 2月 エジプト、ムバラク政権崩壊。</p>

	<p>では東北連盟に対し5百万円の見舞金を送金、今年度登録費、大会参加費の免除等の支援を行う他、東北連盟を除く登録学生から1人当たり200円を集め、総額220万円を被災者救済基金として全剣道に託した。</p> <p>7月 第5回全日本学生剣道選手権大会と第4回全日本女子学生剣道選手権大会が大阪府立体育館で開催され、男子は国士館大学の藤岡弘彦、女子は鹿屋体育大学の津田佳菜子が優勝した。</p> <p>東西対抗戦では男子（第58回）は東軍が大戦1、女子（第5回）は西軍が大戦戦で勝利を収めた。</p> <p>『全日本女子学生剣道優勝大会記念誌 30年の歩み』を発行する。</p> <p>10月 第9回全日本学生剣道優勝大会が日本武道館で開催され、筑波大学が優勝した。</p> <p>11月 第30回全日本女子学生剣道優勝大会が春日井市総合体育館で開催され、筑波大学が優勝した。</p> <p>12月 第7回全日本学生剣道オープン大会が札幌市北海道立総合体育センター北海きたえーるで開催された。初段以下の部の出場者が減少したため、今年度は男女とも2段以下と3段以上の2部制とした。</p>	<p>の他65万円を計上し、分担金計85万円を免除、合計1000万円の支援を決定する。</p> <p>4月 称号・段位審査規則の一部を改定し、初段受賞資格を「一級受取者で満13歳以上の者」とした。</p> <p>8月 『剣道和英辞典（第二版）』を発行。</p> <p>11月 英文による「教士」筆記試験が初めて実施され、8名が受賞、7名が合格した。</p>	<p>ニュージーランド地震、日本人28人を含む185人死亡。</p> <p>3月 11日14時26分「東北地方太平洋沖大地震 M9.0、震度7」が発生、死者・行方不明約2万人。福島第1原子力発電所事故が発生し、10万人を超える被災者が屋内退避や警戒区域外への避難を余儀なくされた。警戒区域外でも、放射性物質漏れによる汚染が起きているほか、日本の原子力発電所の再稼働問題、電力危機なども発生している。</p> <p>九州新幹線開通。</p> <p>7月 女子サッカー・ワールドカップでなでしこジャパン優勝。</p> <p>全国でテレビ放送の完全デジタル化。</p> <p>8月 野田佳彦内閣発足。</p> <p>リビア、カダフィ政権崩壊。</p> <p>9月 台風12号・15号、死者・行方不明者120余名。</p> <p>10月 ドル、1時75円32銭の戦後最安値。タイ、国土の3分の1が浸没。</p>
平成24年	<p>3月 60周年記念事業として、佐藤成明団長以下36名が第2回日欧交流親善使節団としてフランスに渡る。</p> <p>7月 第6回全日本学生剣道選手権大会と第46回全日本女子学生剣道選手権大会が日本武道館で開催され、男子は国士館大学の安藤翔、女子は大塚教育大学の小森田清が優勝した。</p> <p>東西対抗戦は男子（第59回）が東軍が大戦2、女子（第6回）は西軍が大戦戦で勝利を収めた。</p> <p>なお、この大会第1日目に、ホテルグランドパレスにおいて、『全日本学生連盟創立60周年祝賀会』を開催した。</p> <p>10月 第8回全日本学生剣道優勝大会が大坂府立体育館で開催され、国士館大学が優勝した。</p> <p>当連盟のホームページを開設した。</p> <p>11月 第31回全日本女子学生剣道優勝大会が春日井市総合体育館で開催され、鹿屋体育大学が優勝した。</p>	<p>4月 公益法人制度改革に伴い、一般財団法人として発足した。これに伴い、評議員は従来の都道府県代表だけでなく、関係団体の推薦者・学識経験者を加えた。</p> <p>中学校体育授業に武道必修科目として実施開始となる。全体の3分の1の学校で剣道が採用された。</p> <p>6月 昭和62年8月号より創刊に執筆されてきた「まど」がこの月発行された7月号で300回を数えた。</p>	<p>1月 イタリア豪華客船遭難続報。</p> <p>2月 スカイツリー完成、5月開業。</p> <p>5月 金曜日食を規制。</p> <p>7月 九州北部で記録的豪雨。</p> <p>8月 韓国李明博大統領、竹島に上陸。</p> <p>9月 中国、尖閣諸島国有化に反日デモ。</p> <p>12月 北朝鮮、人工衛星弾道ミサイル発射。韓国、初の女性大統領朴槿恵誕生。安倍晋三内閣発足。</p>
平成25年	<p>10月 第8回全日本学生剣道優勝大会が大坂府立体育館で開催され、国士館大学が優勝した。</p> <p>11月 第31回全日本女子学生剣道優勝大会が春日井市総合体育館で開催され、鹿屋体育大学が優勝した。</p> <p>7月 第61回全日本学生剣道選手権大会と第47回全日本女子学生剣道選手権大会がBODYMAKERコロシアム（旧大阪府立体育館）で開催され、男子は日本体育大学の村東謙、女子は鹿屋体育大学の津田佳菜子が優勝した。</p> <p>東西対抗戦では、男子（60回）は東軍が大戦4、女子（第7回）は大戦戦で西軍が勝利を収めた。</p> <p>11月 第61回全日本学生剣道優勝大会が日本武道館で、第32回全日本女子学生剣道優勝大会が春日井市体育館で開催され、男子は国士館大学が優勝した。</p> <p>12月 第8回全日本学生剣道オープン大会が広島グリーンアリーナで開催された。</p>	<p>3 文部科学省の「平成25年度武道等指導推進事業」の委託を受け、武道等指導支援強化委員会を設置し、各種事業を開催、実績報告を文部科学省に提出した。</p>	<p>3月 広島高裁、第46回衆議院選挙で一票の格差が是正されなかったために広島1区、2区での選挙を無効とする判決を下す。</p> <p>5月 東京スカイツリーからのテレビ放送開始。</p> <p>6月 富士山が世界遺産登録。</p> <p>7月 参議院選挙。わじれ国会解消。</p> <p>8月 高知県四万十市で国内最高気温を観測。</p> <p>11月 広島高裁岡山支部、一票の格差を、7月の参院選に意見かつ無効判決。参院選で無効判決が出るのは国内初。</p> <p>12月 特定秘密保護法が可決。</p>
平成26年	<p>7月 第62回全日本学生剣道選手権大会と第48回全日本女子学生剣道選手権大会が日本武道館で開催され、男子は梅ヶ谷翔、女子は松本弥月が優勝した。</p> <p>東西対抗戦では男子（61回）は東軍が大戦1、女子（第8回）は東軍が大戦戦で勝利を収めた。</p> <p>11月 竹ノ内佑也が第62回全日本剣道選手権大会で学生では43年ぶりとなる優勝を果たした。</p> <p>第33回全日本女子学生剣道優勝大会が春日井市総合体育館で、第62回全日本学生剣道優勝大会がBODYMAKERコロシアムで開催され、女子は法政大学、男子は鹿屋体育大学が優勝した。</p> <p>12月 第9回全日本学生剣道オープン大会が長野市真島総合スポーツアリーナで開催された。</p>	<p>3月 「絵巻と写真に見る剣道文化史」を刊行した。</p> <p>4月 「全日本剣道連盟アンチ・ドーピング規程」を「同ドーピング防止規程」と改定し、施行した。</p>	<p>4月 消費税が5%から8%に引き上げられる。</p> <p>7月 集団的自衛権の行使を認める憲法解釈の変更を閣議決定。</p> <p>8月 広島県北部で大規模な土砂災害</p> <p>9月 御嶽山が噴火し、被害者の数で雲仙普賢岳の噴火を上回る。</p> <p>12月 小悪魔探査機「はやぶさ2」打ち上げ</p>
平成27年 (2015年)	<p>7月 第63回全日本学生剣道選手権大会と第49回全日本女子学生剣道選手権大会が大坂府立体育館で開催され、男子は林田直平、女子は高橋希子が優勝した。</p> <p>東西対抗戦では男子（62回）は東軍が大戦戦、女子（9回）は東軍が大戦戦で勝利を収めた。</p> <p>11月 第34回全日本女子学生剣道優勝大会が春日井市総合体育館で、第63回全日本学生剣道優勝大会が日本武道館で開催され、女子は鹿屋体育大学、男子は筑波大学が優勝した。</p> <p>12月 第10回全日本学生剣道オープン大会が宮城県総合運動公園で開催された。</p>	<p>11月 西村英久が第63回全日本選手権大会で初優勝を果たした。</p>	<p>6月 日本年金機構、加入者の氏名や基礎年金番号を流出させる。改正公職選挙法が成立され、18歳と19歳が有権者になる。</p> <p>9月 安全保障関連法が成立。</p>
平成28年	<p>7月 第64回全日本学生剣道選手権大会と第50回全日本女子学生剣道選手権大会が日本武道館で開催され、男子は山田凌平（明治大学2年）、女子は小川萌々香（日本体育大学2年）が優勝した。</p> <p>東西対抗戦では、男子（63回）は東軍が大戦戦、女子（10回）は西軍が大戦戦で勝利を収めた。</p> <p>10月 第64回全日本学生剣道優勝大会がエディオンアリーナ大阪で開催され、大阪体育大学が優勝した。</p> <p>11月 第34回全日本女子学生優勝大会が春日井市総合体育館で開催され、鹿屋体育大学が優勝した。</p> <p>12月 第11回全日本学生剣道オープン大会が</p>	<p>1 藤見洋介（鹿屋体育大学卒・神奈川県警）が第64回全日本選手権大会で初優勝を果たした。</p>	<p>3月 北海道新幹線（新青森 - 新函館北斗間）開通。</p> <p>4月 熊本地震発生。震度7を観測。</p> <p>6月 イギリス、EU離脱</p> <p>7月 小池百合子氏が都知事に初当選。</p> <p>8月 リオデジャネイロにてオリンピック開催。天皇陛下、退位のご意向示唆。</p> <p>11月 ドナルド・トランプ氏がアメリカ大統領に当選。</p>

平成29年	<p>千歳市開基記念総合武道館で開催された。</p> <p>7月 全日本剣道連盟剣道功労賞を授けられた鳥居寿彦全日本学生剣道連盟会長に全日本学生剣道連盟より記念品が贈呈された。</p> <p>第65回全日本学生剣道選手権大会と第61回全日本女子学生剣道選手権大会が日本武道館で開催され、男子は牧島清太郎（鹿屋体育大学3年）、女子は大西ななみ（筑波大学4年）が優勝した。東西対抗戦では、男子（64回）は東軍が6対戦、女子（11回）は東軍が大得意で勝利を収めた。</p> <p>10月 第65回全日本学生剣道優勝大会が日本武道館で開催され、筑波大学が優勝した。</p> <p>11月 第36回全日本女子学生剣道優勝大会が春日井市総合体育館で開催され、日本体育大学が優勝した。</p> <p>12月 第12回全日本学生剣道オープン大会が広島グリーンアリーナで開催された。</p>	<p>11月 西村英久（筑波大学卒・熊本県警）が第65回全日本選手権大会で2度目の優勝を果たした。</p>	<p>2月 「プレミアムフライデー」初実施。</p> <p>6月 安倍晋三が2020年の憲法改正目標表明。</p> <p>6月 天皇退位特例法が成立。</p> <p>7月 「沖ノ島」世界遺産に。</p> <p>11月 景気回復「いざなぎ超え」公表。</p>
平成30年	<p>7月 第66回全日本学生剣道選手権大会と第52回全日本女子学生剣道選手権大会が日本武道館で開催され、男子は矢野真之（国士館大学4年）、女子は藤崎真子（明治大学3年）が優勝した。東西対抗戦では、男子（65回）は西軍が新得意、女子（12回）は西軍が大得意で勝利を収めた。</p> <p>10月 第66回全日本学生剣道優勝大会が鳥善インテック大坂で開催され、中央大学が優勝した。</p> <p>11月 第37回全日本女子学生剣道優勝大会が春日井市総合体育館で開催され、鹿屋体育大学が優勝した。</p> <p>12月 第13回全日本学生剣道オープン大会がいしわか総合スポーツセンターで開催された。</p>	<p>9月 第17回世界剣道選手権大会が韓国仁川市の興南体育館で開催され、男子団体、女子団体共に日本が優勝した。男子個人は安藤翔（国士館大学卒・北海道）、女子は松本奈月（法政大学卒・神奈川県）が優勝を果たした。</p> <p>9月 高橋萌子（法政大学卒・神奈川県）が第57回全日本女子学生剣道選手権大会で2年連続優勝を果たした。</p> <p>11月 西村英久（筑波大学卒・熊本県警）が第66回全日本選手権大会で2年連続3度目の優勝を果たした。</p>	<p>2月 平昌オリンピックが開催</p> <p>6月 美観賞協会が改行される</p> <p>10月 TPP11発効</p> <p>11月 日産ゴーン会長を逮捕 2025年の大阪万博の開催が決定</p>
令和元年	<p>6月 第67回全日本学生剣道選手権大会と第53回全日本女子学生剣道選手権大会がエディオンアリーナ大阪で開催され、男子は星子啓太（筑波大学3年）、女子は小松加奈（明治大学3年）が優勝した。東西対抗戦では、男子（66回）は東軍が不戦3、女子（12回）も東軍が大得意で勝利を収めた。</p> <p>10月 第67回全日本学生剣道優勝大会が千歳グリーンアリーナで開催され、中央大学が優勝し、2連覇を果たした。</p> <p>11月 第38回全日本女子学生剣道優勝大会が春日井市総合体育館で開催され、立教大学が初優勝を果たした。</p> <p>12月 第14回全日本学生剣道オープン大会がカメイアリーナ（仙台市体育館）で開催された。</p>	<p>9月 松本奈月（法政大学卒・神奈川県）が第58回全日本女子学生剣道選手権大会で4年ぶり2度目の優勝を果たした。</p> <p>11月 国友隼太郎（国士館大学卒・福岡県警）が第67回全日本選手権大会で初優勝を果たした。</p>	<p>5月 天皇陛下即位、年号が令和へと改元</p> <p>9月 ラグビーワールドカップ日本大会、日本ベスト8</p> <p>10月 消費税10%、西野彰氏ノーベル化学賞受賞</p>
令和2年	<p>7月 新型コロナウイルスの影響により、第68回全日本学生剣道選手権大会と第54回全日本女子学生剣道選手権大会および第67回全日本学生剣道東西対抗試合と第14回全日本学生剣道東西対抗試合が中止となった。</p> <p>10月 第68回全日本学生剣道優勝大会が中止となった。</p> <p>11月 第39回全日本女子学生剣道優勝大会が中止となった。</p> <p>12月 第15回全日本学生剣道オープン大会が令和3年12月11日・12日に延期となった。</p>	<p>9月 第59回全日本女子学生剣道選手権大会が中止となった。</p> <p>11月 第68回全日本選手権大会が中止となった。</p> <p>3月 松崎賢士郎（筑波大学4年）が第68回全日本選手権大会で初優勝を果たした。</p> <p>3月 藤岡真太郎（中央大学2年）が第59回全日本女子学生剣道選手権大会で初優勝を果たした。</p>	<p>3月 山手樹49年ぶり新報「高輪グートウェイ」開業</p> <p>7月 東京五輪、パラリンピック延期 将棋の藤井聡太七段が最年少タイトル獲得</p> <p>10月 杜馬、札幌ともに無敵三冠馬誕生</p>
令和3年	<p>6月 新型コロナウイルスの影響により、第69回全日本学生剣道選手権大会と第55回全日本女子学生剣道選手権大会が令和3年12月4日に延期となった。</p> <p>10月 第69回全日本学生剣道優勝大会がエディオンアリーナ大阪で開催され、中央大学が優勝し、3連覇を果たした。</p> <p>11月 第40回全日本女子学生剣道優勝大会が春日井市総合体育館で開催され、中央大学が初優勝を果たした。</p> <p>12月 第69回全日本学生剣道選手権大会と第55回全日本女子学生剣道選手権大会が豊田総合体育館で開催され、男子は黒川雄大（筑波大学3年）、女子は水川晴貴（法政大学1年）が優勝した。第15回全日本学生剣道オープン大会がエフビオアリーナふくやまで開催され、761名が出場した。</p>	<p>9月 株尾舞音（鹿屋体育大学）が第69回全日本女子学生剣道選手権大会で初優勝を果たした。</p> <p>11月 星子啓太（筑波大学卒・無所属）が第69回全日本選手権大会で初優勝を果たした。</p>	<p>7月 夏季東京五輪、パラリンピック開催</p> <p>9月 子ジラル市の設置</p> <p>11月 将棋の藤井聡太、最年少4冠</p> <p>2月 冬季北京五輪、パラリンピック開催</p>
令和4年	<p>7月 第70回全日本学生剣道選手権大会と第56回全日本女子学生剣道選手権大会が日本武道館で開催され、男子は岩崎崇（国士館大学4年）、女子は水川晴貴（法政大学2年）が優勝した。東西対抗戦では、男子（69回）は、東軍が7対5分9、女子（16回）は、西軍が4対3分3で勝利を収めた。</p> <p>なお全日本女子学生剣道選手権大会後、当連盟創立70周年記念事業として森花子NHKアナウンサーを司会に中本美枝也・坂本尚氏、金谷裕氏の対談が行われた。そのうち森花子アナがゲストに出演し記念祝賀会が開催された。</p> <p>10月 第70回全日本学生剣道優勝大会がエディオンアリーナ大阪で開催され、筑波大学が優勝した。</p> <p>11月 第41回全日本女子学生剣道優勝大会が春日井市総合体育館で開催され、鹿屋体育大学が優勝した。</p> <p>12月 第16回全日本剣道オープン大会が北ガスアリーナ札幌46で開催され、647人が出場した。</p>	<p>9月 末永真理（PL学園高校卒・団体職員）が第61回全日本女子学生剣道選手権大会で9年ぶり、3度目の優勝を果たした。村上智希（松山大学卒・環境県警）が第70回全日本選手権大会で初優勝を果たした。</p>	<p>4月 成人年齢が20歳から18歳に引き下げ</p> <p>7月 安倍元首相が腎臓がんのため、9月に国葬</p> <p>10月 プロ野球・ヤクルト村上が56号本塁打、三冠王</p> <p>11月 W杯日本代表16強</p> <p>12月</p>